



お 夫 文 夫



権とも1位となり、岐阜・大分・埼玉国体に出場、法政大学に進学した。大学最後のインターカレッジでは水泳部主将として万年4位の同大を初の3位に。卒業後は地元で子供たちの指導に当たる一方茨城・三重・佐賀国体へ。31歳を機に栃木国体再出場、成年30歳以上50分自由形で1位、滋賀・島根では2位、地元のあかぎ国体、続く奈良国体でも1位優勝。その後も国体出場を続け、平成2年の福岡国体では大会新記録の26秒12を記録、家族の見守る中優勝を飾り、通算17回の快記録を印した。



群馬のスポーツ人⑧ 国体に17回出場した鉄人スイマー

の 野 滋



坂東太郎・利根川は、滋野文夫にとって泳ぎの先生であり、生みの母だ。滋野は1949年（昭和24）年7月4日、前橋市に生まれ、利根川は絶好の遊び場となり、川泳ぎからすっかり水泳のとりこに。プール開きで先輩選手の「モーターボート」が水の上を走るような泳ぎを見て選手への道を志す。三中入学の秋、市民プールで水泳部の活動を知り入部。新人戦を皮切りに兎角（とかく）を表し、当時水泳が一番強かった前橋工へと進んだ。高1の高校総体や県選手権の100分自由形で1位。2、3年でも総体、県選手

